

HP Connect-It Software

ソフトウェアバージョン : 3.80

Remedy Service Management - AssetCenter



法的制限事項

保証

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の明示的保証規定に記載されているものに限られます。

本書のいかなる内容も当該保証に新たに保証を追加するものではありません。

HPは、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねます。

ここに記載されている情報は、予告なしに変更されることがあります。

限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア。

所有、使用、または複製するには、HPからの有効なライセンスが必要です。

"FAR 12.211および12.212準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアマニュアル、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

Copyrights

© Copyright 1994-2007 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

- Adobe®, Adobe Photoshop® and Acrobat® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.
- Corel® and Corel logo® are trademarks or registered trademarks of Corel Corporation or Corel Corporation Limited.
- Java™ is a US trademark of Sun Microsystems, Inc.
- Linux is a U.S. registered trademark of Linus Torvalds
- Microsoft®, Windows®, Windows NT® and Windows® XP are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.
- Oracle® is a registered US trademark of Oracle Corporation, Redwood City, California.
- UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

目次

ビジネスプロセス統合	7
マニュアルの紹介	7
前提	7
技術的な参照	8
データ統合について	8
統合前のセットアップ - AssetCenter	9
統合前のセットアップ - Remedy Service Management	9
1. AssetCenterへのデータの初期伝播	13
分類情報	13
場所情報	16
部署情報	17
人員情報	18
資産情報	19

表の一覧表

1.1. 資産の属性	13
1.2. 契約の性質	14
1.3. モデル	15
1.4. 契約のモデル	15
1.5. 場所 - 地域とサイト	16
1.6. 場所 - 住所	16
1.7. 場所 - オフィス	17
1.8. 部署	17
1.9. 人員	18
1.10. 主要な資産情報	19
1.11. コンポーネント資産情報	20
1.12. ワークステーション/コンピュータ資産情報	21

ビジネスプロセス統合

マニュアルの紹介

このマニュアルは、RSM HelpdeskとAssetCenterの統合について個々の項目に焦点を当てます。

この統合には、2つの主要な側面があります。

- 1 2つのシステム、人員、資産、コストセンタ、依頼テンプレートなどの間のデータ複製。
- 2 問題/ヘルプデスク管理の処理をAsset Managementの処理にまとめる機能。

前提

この提案は、本製品の潜在的な顧客がRemedy HD 4.xまたは5.xを所有しているが付加製品としてRemedy Asset Managementを未購入であることを前提として、作られています。

注意:

フィールドサポートは、AssetCenterを作業指示に使用します。ヘルプデスクサポートは、RSM Helpdeskを使用します。

技術的な参照

- Remedy Service Managementヘルプデスクレコードは、「RSM HDチケット」と参照されます。
- Remedy Service Management変更管理レコードは、「RSM変更依頼」と参照されます。
- AssetCenter依頼は、「AC依頼」と参照されます。
- AssetCenter統合チケットは、「ACチケット」と参照されます。
- AssetCenter経費明細は「AC経費」と参照されます。

データ統合について

この統合は、既存のRemedy Help Desk実装にHP OpenView AssetCenterを追加することを前提とします。Remedy Help Deskの既存データの一部は、同期および相互運用性を確保するためにAssetCenterデータベースに複製する必要があります。データの最初の伝播を実行するために、Connect-Itシナリオが作成されています。それらを環境に合うように設定した後、スケジュールで複製を管理できるようにする必要があります。

要件

ソフトウェア	バージョン
Action Request System	4.xまたは5
Remedy Helpdesk	4.xまたは5
AssetCenter	4.1
Connect-It	3.x

サポート対象開発サーバOS

以下は、実装プロセスでサポート対象とするすべてのサーバOSのリストです。

- Windows NT 4
- Windows 2000 Server Addition

サポート対象クライアントOS

以下は、実装プロセスでサポート対象とするすべてのクライアントOSのリストです。

- Windows 95/98

- Windows NT 4
- Windows 2000

サポート対象DBMS

実装プロセスでサポート対象とするすべてのDBMSのリストについては、以下のWebサイトの互換性に関する表を参照してください。

www.hp.com/managementsoftware/peregrine_support/.

統合前のセットアップ - AssetCenter

AssetCenterのRSM製品との統合を可能にするには、Connect-Itシナリオを実行する前に、AssetCenterでいくつかの手順を実施する必要があります。統合を成功させるためには、正確にこれらの手順に従うことが重要です。

- 1 整合性を取るためには、amPortfolio、amAsset、およびamComputerにフィーチャを追加する必要があります。-フィーチャfv_RemedysAssetIDをファイルfeatures.zipからインポートします。

統合前のセットアップ - Remedy Service Management

Connect-Itシナリオを実行する前に、Action Request Serverでいくつかの手順を実施する必要があります。統合を成功させるためには、正確にこれらの手順に従うことが重要です。

- 1 既存のRemedyサーバへの変更を自動的に行う場合は、RemedyインストールプログラムNAME GOES HEREを実行します。手動で行うか、サーバへの変更を記録する場合は、手順の概要をここに記述しています。
- 2 ハードディスクサイズおよびメモリサイズのデータがフォームAST:Workstationの文字フィールドに格納されます。データは、関連する単位と共に整数として格納する必要があります。既存のデータを修正するために、HP Softwareでは、エスカレーションとフィルタを用意しており、適切なフォーマットによる既存のデータの新規フィールドへのコピーを試みることができます。これは、入力補助専用です。既存のデータを変更することはなく、新規フィールドへの入力を試みるだけです。

以下のフィールドがAST:Workstationにインポートされます。

フィールドタイプ	データまたは表示のみ	データベース名	フィールド番号	列挙値	デフォルト値
整数	データ	IntHardDiskSize	200000052	n/a	n/a
整数	データ	IntMemorySize	200000053	n/a	n/a

選択	データ	ハードディスク サイズ単位	200000054	(0)MB、(1)GB	MB
選択	データ	メモリサイズ単 位	200000055	(0)MB、(1)GB	MB
整数	非表示/表示の み	zTmpUnit	230000014	n/a	n/a
文字長30	非表示/表示の み	TmpUnitPos	230000015	n/a	n/a

- 3 AssetCenterレコードをRemedyレコードに簡単にリンクできるようにするために、ID番号および状態値を受け渡すシナリオが実装してあります。これらのシナリオを使用するには、以下のフィールドをCHG:Change、CHG:Task、およびHPD:Helpdeskに追加する必要があります。

フィールドタイプ	データまたは表示のみ	データベース名	フィールド番号	列挙値	デフォルト値
選択	データ - 読み取り専用	ACステータス	260800900	(0)Ready to Send、(1)In preparation、(2)Standard request、(3)Quoted、(4)Awaiting approval、(5)Validated、(6)Refused、(7)Reserverd、(8)Satisfied、(9)Closed、(10)Error	なし
文字長15	データ - 読み取り専用	AC依頼ID	260100900	n/a	n/a

- 4 関連チケットを簡単にリンクできるようにするには、SHR:DefineAssociationに追加する必要があるフィールドをシナリオで使用します。以下のフィールドをSHR:DefineAssociationに追加します。

フィールドタイプ	データまたは表示のみ	データベース名	フィールド番号	列挙値	デフォルト値
文字長15	データ - 読み取り専用	zTmpACRequestID	250000900	n/a	n/a

- 5 以下のフィルタがインストールに含まれています。

フィルタ名	関連フォーム	目的
-------	--------	----

???	HPD:HelpDesk	TCO:LineItem項目を作成します。
???	TCO:LineItem	TCO:LineItem用にSHR:Personからレートを取得し、コストを計算します。
???	TCO:LineItem	TCO:LineItem用に関連の資産情報を取得します。
???	HPD:HelpDesk、 CHG:Change、CHG:Task	ACステータスが'Error'に設定されている場合、通知をRemedy管理者に送信します。

- 6 以下のアクティブなリンクがインストールに含まれています。(UPDATE)の通知は、以前のバージョンが存在し置き換えられたことを意味します。

アクティブなリンクの名前	関連フォーム	目的
SHRDA:INTG-PushACReqID_Adv	SHR:DefineAssociation	???
SHRDA:INTG-PushACReqID_Pre	SHR:DefineAssociation	???
SHRH:HPD-CreateRelatedHPD (UPDATE)	HPD:HelpDesk	Create->Caseメニューに結び付けられています。ユーザが関連の例を作成することを選択している場合、実行ウィンドウに渡された現在の例の情報と共にHPD:HelpDeskフォームを実行モードで開くマクロを実行します。
SHRH:HPD-CreateRelatedHPD_new	HPD:HelpDesk	???
SHRH:SHR-SearchViaCP1 (UPDATE)	HPD:HelpDesk	???
SHRH:SHR-SearchViaCP2 (UPDATE)	HPD:HelpDesk	???

- 7 以下のエスカレーションがインストールに含まれています。

エスカレーション名	関連フォーム	目的
AST:Workstation RUN ONCE TO CLEAN UP DISK AND MEM SIZE	AST:Workstation	以下の手順を参照してください。

- 8 本番データを一括で更新できる時に実行するように、エスカレーション **AST:Workstation RUN ONCE TO CLEAN UP DISK AND MEM SIZE** を設定します。このエスカレーションは、1回実行してから無効にする必要があります。エスカレーションの実行後、データをチェックして、古いハードディスクフィールドとメモリフィールドのデータが新規フィールドに正常に更新

されていることを確認します。これが行われたら、古いフィールドを非表示にして4つの新規フィールドを利用することをお勧めします。古いフィールドを参照している可能性があるプッシュフィールドまたはインポート操作がある場合、この定義ファイルに含まれるフィルタは、新規データフィールドの設定を続行します。

- 9 フォームSHR:Peopleの「Phone」フィールドに格納されたデータが20文字を超えていないことを確認します。Remedy管理者ツールを使用して、フィールドのデータベース長を20文字まで短縮します。これが必要な理由は、AssetCenterのPhoneフィールドが20文字以内であり、この長さを超えると電話番号がインポート時に切り詰められるからです。
- 10 フォームAST:Workstationで、CPUタイプに関する情報を標準化する必要があります。Remedy Service Managementでは、このフィールドがフリーフォーマットですが、AssetCenterでは、CPUタイプとCPU速度の情報が2つの異なるフィールドに格納されます。CPUタイプのみを該当のRemedy Service Managementフィールドに格納する場合、これ以上操作する必要はありません。反対にこのフィールドにCPUタイプとCPU速度を両方とも格納する場合は、上記の項目2で作成された例に従って、別のフィールドを作成する必要があります。
- 11 シナリオ実行中に発生するエラーは、Connect-Itインストールフォルダ（通常はC:\Program Files\HP OpenView\ConnectIt）のscenario\errorにあるXMLファイルに格納されます。
例えば、部署名をRemedy Service ManagementからAssetCenterに伝播しているときに問題が発生する場合があります。この特定フィールドは、AssetCenterで50文字に制限されますが、整合性の問題を回避するために、名前をこの制限まで切り詰めることはできません。そのようなレコードは処理されず、前述のXMLファイルにエラーが記録されます。伝播を試みた後にこのファイルを確認して、すべてのデータが間違いなく転送されたことを確かめてください。
- 12 HelpdeskシナリオとChangeシナリオの実行中に発生するエラーは、さらにエラー発生の通知を送信します。この通知はデフォルトで、ARシステムフォームUserに設定されたデフォルトの通知方式によって、ユーザ「Demo」に届けられます。通知を変更するには、AR管理者ツールを使用してエスカレーションNAME GOES HEREを変更します。

1 AssetCenterへのデータの初期伝播

- 1 **Connect-It**を起動します。
 - 以下のシナリオをそれぞれ開いて、ユーザのインストールで実行するように設定します。
 - **Action Request System**コネクタを右クリックして、それをサーバに設定します。
 - **Asset Management**コネクタを右クリックして、それをサーバに設定します。
- 2 以下の順序でシナリオを実行します。

分類情報

amNature

属性データは、最初に入力する必要があります。資産の属性は、モニタ、サーバ、ラップトップ、プリンタなど一般的な品目の分類です。**Remedy**インストールを**SHR: Categorization**に指定されたサンプルデータに従って行くと、以下のような情報が見つかります。このマッピングが正しくない場合、実装者が調整する必要があります。

表 1.1. 資産の属性

シナリオ名	SHRCategorization
-------	-------------------

マッピング名	SHR:CategorizationSrc-amNatureDst
ソースドキュメントタイプ	SHR:CategorizationSrc
宛先ドキュメントタイプ	amNatureDst
マッピング制約	if [Type] = "---" then piIgnoreDocumentMapping end if



Rec.キー	要素	マッピング
	コード	[Category]
	名前	[Category]
	seBasis	if [ApplicationSchemaKeyword] = "ALL" then RetVal = 99 else RetVal = 1 end if
	seMgtConstraint	if [ApplicationSchemaKeyword] = "ASSETINSTOCK" then RetVal = 0 else RetVal = 2 end if

表 1.2. 契約の性質

シナリオ名	SHRCategorization
マッピング名	SHR:CategorizationSrc-amNatureDst (契約)
ソースドキュメントタイプ	SHR:CategorizationSrc
宛先ドキュメントタイプ	amNatureDstContracts
マッピング制約	if [Type] <> "---" then piIgnoreDocumentMapping end if

Rec.キー	要素	マッピング
	コード	RetVal= "Contract"
	名前	RetVal= "Contract"
	seBasis	4

 **注意:**

シナリオを実行して属性情報を伝播した後、属性テーブルを開いて、一般タブに情報を設定する必要があります。この手順は、資産が適切に作成されていることを前提として実行する必要があります。さらに、Codeフィールドを接頭文字タイプコードに更新することを選択できます。例えば、Standard AssetがSTD_ASSETのコードになります。

amModel

モデルは属性の1タイプであるため、モデルデータは、属性の後に入力する必要があります。モデルデータの例は、属性「ラップトップ」の下のブランド「Toshiba」の場合の「Satellite Pro490CDT」などです。RemedyインストールをSHR:Categorizationに指定されたサンプルデータに従って行くと、以下のような情報が見つかります。これが正しくない場合、マッピングを調整する必要があります。

表 1.3. モデル

シナリオ名	SHRCategorization
マッピング名	SHR:CategorizationSrc-amModelDst
ソースドキュメントタイプ	SHR:CategorizationSrc
宛先ドキュメントタイプ	amModelDst
マッピング制約	if [Type] = "---" then pifIgnoreDocumentMapping end if








Rec.キー	要素	マッピング
	Name	[Item]
	Nature.Name	[Category]
	Parent.Name	[Type]
	Parent.Nature.Name	[Category]

表 1.4. 契約のモデル

シナリオ名	SHRCategorization
マッピング名	SHR:CategorizationSrc-amModelDst (契約)
ソースドキュメントタイプ	SHR:CategorizationSrc
宛先ドキュメントタイプ	amModelDstContracts
マッピング制約	if [Type] <> "---" then pifIgnoreDocumentMapping end if

Rec.キー	要素	マッピング
	Name	[Category]
	Nature.Name	RetVal = "Contract"
	Parent.Name	if [ApplicationSchemaKeyword] = "ASSETSOFTWARE" then RetVal = "Software License" elseif [ApplicationSchemaKeyword] = "ASSETLEASE" then RetVal = "Lease" elseif [ApplicationSchemaKeyword] = "ASSETSUPPORT" then RetVal = "Support" elseif [ApplicationSchemaKeyword] = "ASSETWARRANTY" then RetVal = "Warranty" elseif [ApplicationSchemaKeyword] = "ASSETMAINTENANCE" then RetVal = "Maintenance" end if

Rec.キー	要素	マッピング
	Parent.Nature.Name	RetVal = "Contract"

場所情報

AssetCenterの場所情報は、amLocationに格納されます。Remedy Service Managementの場所情報は、複数の位置に格納されます。2つの製品のこの違いを調整するには、3つのシナリオを実行する必要があります。

表 1.5. 場所 - 地域とサイト

シナリオ名	SHRLocation
マッピング名	SHR:LocationSrc-amLocationDst (地域、サイト)
ソースドキュメントタイプ	SHR:LocationSrc
宛先ドキュメントタイプ	amLocationDst
マッピング制約	if [Region] = "" Or [Site] = "" then pifIgnoreDocumentMapping end if




Rec.キー	要素	マッピング
	Name	[Site]
	Parent.Name	[Region]

表 1.6. 場所 - 住所





シナリオ名	SHRPeople_Location
マッピング名	SHR:PeopleSrc-amLocationDst (住所)
ソースドキュメントタイプ	SHR:PeopleSrc
宛先ドキュメントタイプ	amLocationDst
マッピング制約	if [Region] = "" Or [Site] = "" Or [AddrLine] = "" then pifIgnoreDocumentMapping end if

Rec.キー	要素	マッピング
	Address1	[AddrLine]
	BarCode	[Site]+[AddrLine]
	City	[City Name+]
	Name	[AddrLine]
	State	[State/Prov+]
	ZIP	[Postal Code+]
	Parent.Name	[Site]

Rec.キー	要素	マッピング
	Parent.Parent.Name	[Region]

表 1.7. 場所 - オフィス

シナリオ名	SHRPeople_Location
マッピング名	SHR:PeopleSrc-amLocationDst (オフィス)
ソースドキュメントタイプ	SHR:PeopleSrc
宛先ドキュメントタイプ	amLocationDst1
マッピング制約	if [Office] = "" Or [Site] = "" Or [AddrLine] = "" Or [Region] = "" then pifIgnoreDocumentMapping end if


Rec.キー	要素	マッピング
	BarCode	[AddrLine]+ [Office]
	Name	[Office]
	Parent.Name	[AddrLine]
	Parent.Parent.Name	[Site]
	Parent.Parent.Parent.Name	[Region]




部署情報

AssetCenterの部署情報は、amEmplDeptに格納されます。Remedy HelpdeskとAsset Mangement内の情報ソースはSHR:Locationです。

表 1.8. 部署

シナリオ名	SHRLocation
マッピング名	SHR:LocationSrc-amEmplDeptDst (部署)
ソースドキュメントタイプ	SHR:LocationSrc
宛先ドキュメントタイプ	amEmplDeptDst
マッピング制約	if [Region] = "" Or [Site] = "" Or [Department] = "" then pifIgnoreDocumentMapping end if

Rec.キー	要素	マッピング
	bDepartment	1
	Name	[Site] + "(" + [Department] + ")"

Rec.キー	要素	マッピング
	Location.Name	[Site]
	Location.Parent.Name	[Region]
	Parent.bDepartment	1
	Parent.Name	[Department]

人員情報


情報ソースはSHR:Peopleです。ターゲットはamEmpDeptおよび関連リンクです。




注意:

amEmpDeptとSHR:PeopleのPhoneフィールド長の違いは、このシナリオを実行する前に調整が必要です。詳細については、統合前の手順を参照してください。

表 1.9. 人員

シナリオ名	SHRPeople
マッピング名	SHR:PeopleSrc-amEmpDeptDst
ソースドキュメントタイプ	SHR:PeopleSrc
宛先ドキュメントタイプ	amEmpDeptDst
マッピング制約	if (([Region] = "")) OR (([Site] = "")) OR (([Department] = "")) then pifIgnoreDocumentMapping end if

Rec.キー	要素	マッピング
	BarCode	[Login Name]
	bDepartment	0
	Email	[Email]
	FirstName	[First Name]
	Name	[Last Name]
	Phone	[Phone]

Rec.キー	要素	マッピング
	Location.FullName	if [Region] <> "" And [Site] <> "" And [AddrLine] <> "" And [Office] <> "" thenRetVal = "/" + [Region] + "/" + [Site] + "/" + [AddrLine] + "/" + [Office] + "/" elseif [Region] <> "" And [Site] <> "" And [AddrLine] <> "" thenRetVal = "/" + [Region] + "/" + [Site] + "/" + [AddrLine] + "/" elseif [Region] <> "" And [Site] <> "" thenRetVal = "/" + [Region] + "/" + [Site] + "/" elseif [Region] <> "" thenRetVal = "/" + [Region] + "/" elseRetVal = "" end if
	Parent.bDepartment	1
	Parent.Name	[Site] + "(" + [Department] + ")"
	Parent.Parent.bDepartment	1
	Parent.Parent.Name	[Department]
	Title	[Training Received]



資産情報

データの初期複製の最終部分は、AssetCenterの資産テーブルにRSMの資産フォームから既知の資産情報を入力することです。これは、AST:Asset、AST:Component、およびAST:Workstationのデータが含まれます。これらのシナリオをリストされた順序で実行する必要があります。

最初のシナリオは、AST:Assetからデータをインポートします。

表 1.10. 主要な資産情報













シナリオ名	ASTAsset2Portfolio
マッピング名	AST:AssetSrc1-amPortfolioDst
ソースドキュメントタイプ	AST:AssetSrc1
宛先ドキュメントタイプ	amPortfolioDst
マッピング制約	

Rec.キー	要素	マッピング
	資産タグ	[Asset ID+]
	コード	[Asset ID+]
	fv_RemedysAssetID	[Entry-Id]

```

seAssignment          if [Status] = 0 then RetVal = 3 elseif [Status]
                      = 1 then RetVal = 1 elseif [Status] = 2 then
                      RetVal = 1 elseif [Status] = 3 then RetVal = 0
                      elseif [Status] = 4 then RetVal = 4 elseif
                      [Status] = 5 then RetVal = 4 elseif [Status] =
                      6 then RetVal = 2 elseif [Status] = 7 then
                      RetVal = 1 elseif [Status] = 8 then RetVal = 2
                      end if



```












	Asset.AssetTag	[Asset ID+]
	Asset.BarCode	[Asset ID+]
	Asset.dAcquisition	[Installation Date]
	Asset.SerialNo	[Serial Number]
	Asset.SharingName	[Name]
	Asset.Model.Name	[Item]
	Asset.Model.Nature.Name	[Category]
	Asset.Model.Parent.Name	[Type]
	Asset.Model.Parent.Nature.Name	[Category]
	Location.Name	[Site]
	Location.Parent.Name	[Region]
	Model.Name	[Item]
	Model.Nature.Name	[Category]
	Model.Parent.Name	[Type]
	Model.Parent.Nature.Name	[Category]

2番目のシナリオは、AST:Componentからデータをインポートします。Remedy実装のコンポーネントは、特定資産の子であることが前提です。親は、以前のシナリオを実行していればインポートされています。このシナリオは、親資産を検出して、コンポーネントをリンクします。

表 1.11. コンポーネント資産情報

シナリオ名	ASTComponent2Portfolio
マッピング名	AST:ComponentSrc-amPortfolioDst
ソースドキュメントタイプ	AST:ComponentSrc
宛先ドキュメントタイプ	amPortfolioDst
マッピング制約	

Rec.キー	要素	マッピング
	資産タグ	[Component ID+]+[Main Asset ID]
	fv_RemediyAssetID	[Entry-Id]
	seAssignment	if [Status] = 0 then RetVal = 0 elseif [Status] = 1 then RetVal = 4 elseif [Status] = 2 then RetVal = 1 elseif [Status] = 3 then RetVal = 3 elseif [Status] = 4 then RetVal = 1 end if
	Asset.AssetTag	[Component ID+]+[Main Asset ID]

	Asset.BarCode	[Serial Number]
	Asset.dAcquisition	[Installation Date]
	Asset.Model.Name	[Item]
	Asset.Model.Nature.Name	[Category]
	Asset.Model.Parent.Name	[Type]
	Location.Name	[Site]
	Location.Parent.Name	[Region]
	Model.Name	[Item]
	Model.Nature.Name	[Category]
	Model.Parent.Name	[Type]
	Model.Parent.Nature.Name	[Category]
	Parent.fv_RemedyAssetID	[Main Asset Eid]




3番目のシナリオは、AST:Workstationからデータをインポートします。Remedy実装では、ワークステーション資産に関する詳細情報が単一テーブルAST:Workstationに格納されます。これは、amAssetとamComputerの間の日付構造および関係に似ています。このシナリオは、コンピュータ資産を検出して、amComputerテーブルに格納されるこの詳細情報をリンクします。

 **注意:**

ハードディスクとRAMの容量データを修正する統合前作業は、このシナリオを実行する前に行う必要があります。詳細については、統合前の手順を参照してください。

表 1.12. ワークステーション/コンピュータ資産情報

シナリオ名	ASTWorkstation
マッピング名	AST:WorkstationSrc-amPortfolioDst
ソースドキュメントタイプ	AST:WorkstationSrc2
宛先ドキュメントタイプ	amPortfolioDst
マッピング制約	

Rec.キー	要素	マッピング
	資産タグ	[Asset ID+]
	コード	[Asset ID+]
	Asset.AssetTag	[Asset ID+]
	Asset.Computer.CPUType	[Processor]
	Asset.Computer.IMemTotalMb	[Total RAM]
	Asset.Computer.IpxSpXAddress	[IPX Address]
	Asset.Computer.TCPIP	[IP Address]
	Asset.Computer.IDiskSizeMb	[Total Hard Disk]
	Asset.Computer.IMemorySizeMb	[Total RAM]
	Asset.Computer.Name	[Node Name]

Asset.Computer.OperatingSystem	[Operating System]
Asset.Computer.OSBuildNumber	[Operating System Version]
Asset.Computer.Workgroup	[MacAddress]
Asset.Computer.Workgroup	[Work Group]

これにより、Remedy Service ManagementとAssetCenter間のデータ伝播の初期段階が完了します。プロジェクトの次の段階では、HelpdeskおよびAssetCenter作業指示、変更依頼、および作業指示の間のビジネスプロセスを統合するシナリオを用意しています。